※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０４

令和８年度 学ﾃﾞｼﾞﾀﾙｱｰﾄ科

教科	学ﾃﾞｼﾞﾀﾙｱｰﾄ	科目	(学)DTM 表現	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

メロディー・リズム・コードの入力方法、楽器ごとの音色の違いを踏まえた MIDI データ・音源作成について学びます。データ入力作業をしながら音楽の基礎知識を学習します。最終的には音源制作を取り組むので音楽著作権に関する基礎知識も学習が必要となります。

2　学習の到達目標

・DTM に関する基礎知識と音源制作を行うための機器操作の技能を身に付ける。
・イメージを音で表現する力と事象を音に切り取る想像力及び自分の表現で発信する力を養う。
・自身の表現を発信するために、主体的に音源制作に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	DTM に関連する分野の基礎的知識を理解している。（知識） DTM の各課題を取り組む技能を有している。（技能）	音楽表現を工夫し、表現意図を持って DTM で創造的に表現している。	DTM の学習に主体的に取り組むことができる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
半期	メロディー入力・再生方法・音色変更方法・五線譜について	・簡易、平易な曲のメロディー入力について。 ・シーケンサーソフトの再生方法、音色変更方法、その他基礎的機能の操作方法について。 ・Jーポップ曲のメロディー入力について。 ・五線譜について。	a:音楽の基礎知識やシーケンサーソフトの基本的機能を理解している。 音楽の基礎知識やシーケンサーソフトの基本的機能の理解を生かしてメロディー入力や課題を実行する技能を有している。 b:原曲の楽譜や記号の意味を理解し、シーケンサーソフトの各機能を活用して音楽表現ができる。 c:主体的に課題に取り組んでいる。	【知】音楽の基礎知識やシーケンサーソフトの基本的機能を理解している。(提出物) 【技】シーケンサーソフトの基本的機能を活用する技能を有している。(提出物)	【思】自己のイメージを持ってシーケンサーソフトで音楽表現ができる。(提出物)	【態】音楽的な基礎知識やシーケンサーソフトでの音楽表現を、主体的に取り組むことができる。(観察)(提出物)
	コードネーム入力	・コードネーム入力での自動伴奏機能活用について。	a: コードネームやコードネーム入力について理解している。 コードネーム入力に関する課題を実行する技能を有している。 b:コードネーム入力での自動伴奏機能を活用して音楽表現ができる。 c:主体的に課題に取り組んでいる。	【知】コードネームやコードネーム入力について理解している。(提出物) 【技】コードネーム入力自動伴奏機能を活用する技能を有している。(提出物)	【思】自己のイメージを持って自動伴奏機能を活用して音楽表現ができる。(提出物)	【態】主体的に課題に取り組むことができる。(観察)(提出物)

※令和４年度以降入学生用

	オーディオファイル・MIDI ファイル・音楽著作権	・オーディオファイル書き出しや MIDI ファイル書き出し方法について。 ・音楽著作権について。	a: オーディオファイル書き出しや MIDI ファイル書き出し方法、音楽著作権について理解している。 音楽著作権を意識したうえでオーディオファイル書き出しや MIDI ファイル書き出しを実行する技能を有している。 c:主体的に課題に取り組んでいる。	【知】オーディオファイル書き出しや MIDI ファイル書き出し方法、音楽著作権について理解している。(提出物) 【技】オーディオファイル書き出しや MIDI ファイル書き出し方法を活用する技能を有している。(提出物)		【態】主体的に課題に取り組むことができる。(観察)(提出物)

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度